

萩  
陶  
芸  
の  
現  
在



萩開府400年記念

# 萩陶芸家協会展

2004.10.30(土) - 11.28(日) 山口県立萩美術館・浦上記念館

開館時間/9:00~17:00 (入館は16:30まで) 毎週月曜休館

入館料/一般 500円 学生 400円

70歳以上と18歳以下、および高等学校、中等教育学校、盲学校・聾学校・養護学校に在籍する生徒は無料

主催/萩開府400年記念陶芸展開催実行委員会

■後援/文化庁 中国経済産業局 山口県 NHK山口放送局 KRY山口放送 TYSテレビ山口 YAB山口朝日放送 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞西部本社 山口新聞社 中国新聞防長本社 西日本新聞社 日本経済新聞社山口支局 ■協力/表千家萩教授会 裏千家淡交会萩支部 小堀遠州流萩支部 遠州流萩支部



「萩焼」は、後に茶碗戦争といわれた、  
1592年と1597年の豊臣秀吉による朝鮮出兵に出陣した大名たちが、  
朝鮮より連れ帰った陶工によって始められたことを起源としています。  
時は折しも千利休によって朝鮮由来の  
高麗茶碗が注目された時代でした。  
高麗茶碗を求める諸大名は競って朝鮮の陶工を連れ帰り、  
自藩において開窯させ、陶器の生産を始めました。  
「萩焼」の場合は、毛利輝元が関ヶ原の敗戦により、  
居城を広島から萩へ移したことに伴い陶工李杓光、  
李敬の一統も萩に移り住み、城下の東郊松本村中ノ倉に  
開窯したことに遡ります。  
萩の地は作陶環境に恵まれており、  
さらに毛利輝元をはじめとする一族の武将たちが、  
いずれも茶人であったことが、「萩焼」が発展していった  
要因といわれています。  
「萩焼」は「一楽・二萩・三唐津」とも言われ、  
使い込むほどにその表情を変える「萩の七化け」を楽しむことができ、  
茶人の間で広く愛好されてきました。  
以来400年の間、江戸時代は萩藩の御用窯として、  
明治以降は職人から作家へとその主導は移り変わり、  
そして現在も萩の陶芸家たちは、伝統を守りつつ大きな変革を見せています。  
伝統の茶陶はもちろんのこと、  
日常の器や花器、萩の陶土を用いたオブジェなど、  
多種多様にわたる分野へと拡がりをみせています。  
このように大きく変化を見せている「萩焼」ですが、  
萩陶芸家協会会員は「萩焼」の栄えある伝統を受け継ぎ、  
新たな分野に挑戦すべく日々研鑽し努力を続けています。  
伝統と革新が共存し、進化を絶えず続ける「萩焼」のすばらしさをご覧ください。

- お茶席 萩陶芸家協会出展作家のお茶碗で抹茶をどうぞ  
萩市内の茶道各流派（4流派）の協力により、会期中の土曜、日曜、祝日  
（10:30～15:30）に出展作家の新作茶碗を用いた呈茶席を設けます。  
※一服 400円
- 10月30日(土)・31日(日) 萩陶芸家協会賛助会
  - 11月6日(土)・7日(日) 小堀遠州流萩支部
  - 11月13日(土)・14日(日) 遠州流萩支部
  - 11月20日(土)・21日(日) 裏千家淡交会萩支部
  - 11月23日(祝)・27日(土)・28日(日) 表千家萩教授会

■同時開催 中国陶磁の展開 10/30(土)～11/28(日)

お問い合わせ先  
萩開府400年記念陶芸展開催実行委員会事務局 萩市江向510 萩市商工課 TEL 0838-25-3108  
山口県立萩美術館・浦上記念館 萩市平安古586-1 TEL 0838-24-2400(代)



■交通のご案内  
JR東萩駅：タクシー7分／徒歩30分  
JR新山口駅：バス70分（萩バスセンター下車徒歩15分）  
萩・石見空港（島根県益田市）：バス75分  
（萩バスセンター下車徒歩15分）  
中国自動車道：小郡I.C.・美祿I.C.から各50分